

## 福井市自然史博物館

# 博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER





カタリナ彗星(2015年12月8日 勝山市平泉寺町) 撮影: 学芸員 加藤英行



ジョンソン彗星(2017年5月29日 勝山市平泉寺町) 撮影: 学芸員 加藤英行

#### 福井の自然史情報

### 様々な姿の彗星

彗星という星の名前を聞いたことがあるでしょうか。彗星とは、氷と塵からできた、太陽系を旅する小さな星です。実は、この彗星との出会いは一期一会。毎年いろいろな彗星が現れますが、その大きさや軌道、組成など、様々な要素が異なるため、同じ姿の彗星を見ることはないのです。



中面に関連記事があります。

## 位望を形ちスペーストラペラー 一等星ってどんな星?ー

第84回特別展イメージキャラクター

開催期間

平成29年7月15日(土)~10月1日(日)

### 彗星のピミツを探ろう!

現在開催中の特別展「夜空を彩るスペーストラベラー」では、夜空に突然現れ、 人々を驚かせてきた謎の星「彗星」について紹介しています。本特別展では、 これまでの研究から見えてきた彗星の姿とともに、福井の夜空に現れた彗星の 写真や、江戸時代に描かれた彗星のスケッチなど、人々が彗星をどのように理 解しようとしてきたのかなどについて展示しています。



(1976年3月7日 越前市別印町) 撮影:小林徹氏

#### 展示の見どころ

#### ◆ 彗星ってどんな星?

彗星は、どんなものでできているのか、 どこからやってきているのかなどを解説し、 福井で撮影された彗星の写真パネルを展示 しています。また、彗星と関係する流星群や、 隕石についても紹介しています。貴重な隕石 の実物もご覧いただけます。



火星から来た隕石 (国立極地研究所所蔵)



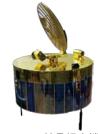
月から来た隕石 (国立極地研究所所蔵)

#### ◆ 彗星の記録

江戸時代に加賀藩で記録された彗星のスケッチや、当館天文台で写真乾板・フィルムを使って撮影された彗星、福井で発見された「小林・バーガー・ミロン彗星」の写真とそれを発見した手作り望遠鏡、彗星を解き明かすために打ち上げられた探査機の模型などを展示しています。



コメットシーカー (彗星捜索のために使われた双眼鏡) (小林徹氏所蔵)



ハレー彗星探査機 「すいせい」1/2模型 (宇宙航空研究開発機構所蔵)

#### ◆ 彗星・星空を楽しむ

彗星、星空に興味を持ったら、さっそく 星空を見上げてみましょう。彗星の接近に あわせて企画された「彗星キャンペーン」 や星空観察のポイント、各地で開催される 天体観望会などを紹介しています。



星空観察に便利ないろいろな 色、大きさの星座早見盤



当館で開催している 天体観望会の様子

## <sup>埋空ウィーグ</sup> みんなで福井の星空マップを作ろう!

小学校の授業で学習する天の川ですが、近年、町の明かりで夜空が明るくなっていることもあり、観察できる場所は限られています。そこで、「福井の星空の現状を把握すること」、「星空をじっくり観察してもらい星空に親しんでもらうこと」を目的に、『星空ウィークーみんなで福井の星空マップを作ろう!ー』を実施しました。

本イベントでは、2017年8月13日から8月22日の夜8時から9時の間に、この時期見やすくなる「はくちょう座」の見え方を観察し、調査シートへ記入してもらうことで、どこで、どれぐらい星が見えるのかを調べました。

この調査は、来年以降も続ける予定です。多くの皆様にご参加いただくことが、福井の星空の現状をより詳しく知ることに繋がります。皆様のご協力をお願いいたします。

調査結果は当館Webページなどで報告予定です。



#### 夏の大三角と天の川

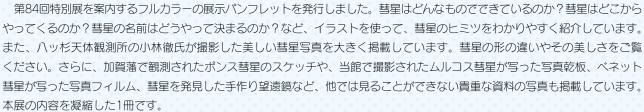
(2015年7月22日 福井市城戸ノ内町)

撮影:学芸員 加藤英行



## 特別展の解説パツフレット

(フルカラー12ページ、2017年7月発行 価格:200円)

















t

### 火星観測と天文学普及に 情熱を注がれた 故花山豪氏のご功績

吉濹 康暢 (特別館長)

花山豪氏は福井市役所勤務の傍ら、中学生時代 に興味を持った天体観測をライフワークとし、生涯を 通して当館の天文台活動に関わり続けてこられました。 その間、火星観測や天体の写真撮影はもとより、市 民の天文学普及に限りない情熱を注いでこられました。 2017年4月13日、満開の桜に包まれた足羽山に見守 られながら79歳の生涯をとじられました。故人のこ れまでのご功績を讃えるとともに、ご冥福をお祈り いたします。

戦災、震災と度重なる災害に見まわれてきた福井 市は、復興のシンボルとして1952年足羽山に当館を 設立しました。当時としては先進的な考えにより、屋 上には大型の天体望遠鏡を備えた天文台が設置され

ました。福井市光陽中学校の天文クラブ長であった氏は、毎晩こ の新設された天文台を訪れ、接近中であった火星観測に熱心に 取り組み、数多くのスケッチを残しました。その後、観測回数や 精度もアップし、1954年、1956年の火星大接近時にはより多く の連続観測スケッチを残しています。氏のスケッチは美しく丁寧 で、記録は分類され整然と保存されています。これらの記録から は、丁寧で真面目な人柄が偲ばれます。



[写真2]福井市収入役時代の肖像写真 (収入役室にて)

1956年、火星表面では"大 黄雲"という砂嵐現象が度々発 生し、表面の模様を隠しました。 氏は日本全国の火星観測者に



「写真3]大学生時代に当館天文台に通い、 15cm屈折望遠鏡で観測した火星の連続 スケッチ(1956年8月4日~23日)

先駆けて大黄雲の写真撮影 に成功し、貴重な記録を残 しています。その成果は高く 評価され、火星観測の専門 書(佐伯恒夫著「火星とその 観測」1968年発行、恒星社 厚生閣) にその詳細が掲載 されています。また、その1 年後に現れた有名なムルコス



[写真1] 高校生時代、当館天文台の15cm 屈折望遠鏡で観測中の花山氏(1954年5月)

彗星C/1957P1(Mrkos)についても、毎晩熱心に観測を続け、連続 した写真の撮影に成功しています。

氏は当館にも勤務(1969年頃)されたことがあり、一般市民や 子供たちのための天体観望会の開催 (月1回のペースで現在まで約 45年間継続)や天体観測研究会の育成をはじめ、天文に関する 企画展や特別展を開催するなど、天文学の教育普及にも熱心に努 めてこられました。また、市当局にこれまでの火星観測の成果を はじめ、天体望遠鏡や天文台の充実の必要性を説明され、創立 以来使用してきた15cm屈折天体望遠鏡を20cm屈折にリニューアル するなど、天文台設備の充実にも貢献してきました。

福井市役所での主な勤務歴 (1960年より) は、財政課長、秘 書課長、社会教育部長、総務部長を経て福井市収入役の要職を 歴任されています。

受賞歴としては、2017年4月13日に瑞宝双光章の叙勲を受けら れました。また、福井県政功労者知事表彰、福井市功労者表彰、

> セーレンプラネットの「火星観測60年の 成果」展示で、火星のスケッチなど資料 提供に対し、福井市長より感謝状を受け られています。

最後になりましたが、本稿の執筆にあ たり、ご遺族の花山絹江様、中静美紀 様には写真アルバムや天文関係の遺品を 当館に提供していただくなど大変お世話 になりました。深く感謝申し上げます。



[写真4] 当館天文台で撮影したムルコス 彗星C/1957P1(Mrkos)の写真(1957年 8月14日)

#### 《あとがき》-

今号では、当館にて7月15日から開催してい る第84回特別展の見どころと、天体観測の話 題について取り上げました。夜空に突然現れ、 人々を驚かせてきた彗星。その謎を解明するた これまでに多くの人々が様々な方法で観測 や研究を行ってきました。それらの成果から得 られた彗星の姿などを紹介した本特別展をご覧 いただき、彗星の魅力や不思議さを感じ、 天体 への興味・関心を持っていただけたらと思って います。

当館天文台にて天体観測や天文学の普 及などにご尽力された故 花山豪氏のご功績は、 当館の活動の歴史であり、大きな財産です。そ れらを後世へと引き継いでいくため、職員一同、 努力していきたいと思います。 (中村)

《ご利用案内》

《交诵案内》

【電 車】

【バス】

開館時間 千前9時~午後5時15分(入館は午後4時45分まで) 休 館 日 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日、

-----●福井鉄道福武線 足羽山公園口駅·商工会議所前駅 各徒歩20分

京福バス:清水グリーンライン(74系統)足羽山公園下バス停

(あじさいの道登る)、不動山口バス停(藤島神社登る) 各徒歩10分

■コミュニティバスすまいる:西ルート(足羽・照手方面)

●まちなか観光周遊バス:足羽山バス停 徒歩3分

※11月26日(日)までの土日祝日のみ運行

年末年始

愛宕坂バス停 徒歩 10分

【徒 歩】JR福井駅から徒歩30分

入 館 料●高校生以上100円(20名以上の団体は半額) 中学生以下、70歳以上、 障害者および付添の方は無料



